

第4回白井市公立保育所の役割及び体制検討委員会会議録（概要）

- 1 開催日時 令和5年11月10日（金） 午後6時から8時
- 2 開催場所 白井市保健福祉センター3階 団体活動室
- 3 出席者 手塚委員長、阿部委員（Zoomにより参加）内藤委員、富澤委員、堀江委員、長堀委員、永田委員、稲田委員、松尾委員、武田委員、相馬委員
- 4 欠席者 浅利委員、田村委員
- 5 事務局 片桐保育課長（Zoomにより参加）、工藤主査、田口主査補
- 6 説明者 白井ふじこども園職員（以下「白井ふじ」と記載）
- 6 傍聴者 なし
- 7 議題 ①インクルーシブ保育について （公開）
②白井ふじこども園の取組みについて
（社会福祉法人いづみ職員による説明）（公開）
③公立保育所の課題の整理 （公開）

8 議 事

事務局 第4回白井市公立保育所の役割及び体制検討委員会を開始する。

本日の検討委員会は、現時点で委員13名中10名の出席があり、後ほど1名が遅れて出席予定。過半数が出席しているため、白井市附属機関条例第6条第2項の規定に基づきこの検討委員会が成立することを申し上げる。

また、会議は原則として「市の会議の公開に関する指針」に基づき、公開とする。そのため、本会議は録音を行うこととする。

事務局 次第では、保育課長よりご挨拶させていただくこととしていたが、今回、保育課長は諸事情によりZoomでの参加とさせていただいた。挨拶は省略させていただく。

事務局 では、議題に入る。ここからの議事進行を委員長にお願いする。

委員長 前回の委員会では、事務局より、市内保育所の視察及び意見交換で皆様から頂いたご質問等に対する説明、白井市が進めている「保育士の魅力ある働き方推進の取組み」の説明、公立保育所と私立保育施設の違いに関する説明があった。

今回、白井ふじこども園さまにお越しいただき、インクルーシブ保育の現場についてのお話を聞かせていただく。

また、前回積み残しとなっている保育所の課題の整理を行う。それでは、議題1について事務局より説明をお願いする。

事務局 では、資料1に沿って説明させていただく。

（以下資料1に沿って説明）

委員長 では、議題1について質問があるか。

なければ、議題2に移る。

白井ふじこども園さまは、白井市富士地区において、県内でも数少ない児童発達支援事業所を併設した認定こども園として、インクルーシブ保育の実践に取り組んでいる。議題2では、白井ふじこども園の職員より、インクルーシブ保育の現場レベルでの話を中心にご説明いただく。

白井ふじ インクルーシブ保育の現場について、現場で保育、療育に携わる保育士と児童発達支援事業所の職員から説明させていただく。

(資料2に沿って説明)

委員長 今回の説明について質問があるか。

委員 質問が2つある。運営に当たって他の施設を参考にしたのか。また、説明のなかで、今後の課題として「保護者と園の保育や療育に対する思いの違い」とあったが、具体的にどのようなことがあるのか。代表的なもので構わないので説明願いたい。

白井ふじ 県内で併設されている施設を何園か見学したほか、加配児を多く受け入れている清水口保育園も見学した。各園の方法を参考にしながら当園ならではの方法を模索していった。

保護者と園の思いの違いについては、園は児童の発達の状況等を見ながら児童にとって最も適切と思われる保育方法を提案するが、保護者にとっては周りの児童と違う対応になることを受け入れられないことがある。配慮を必要とする児童にとって集団で過ごすことがどれだけ大変なことか保護者に理解してもらうことが大事。

委員 認定こども園と児童発達支援事業所の間で職員の行き来はあるのか

白井ふじ 園での昼食時や発表会の練習に療育の先生が付き添っている。また、不定期だが保育士が療育の現場を見学に行っている。

委員 月1回の職員会議には、全ての専門職が参加するのか。

白井ふじ 職員会議は月1回のため非常勤職員である専門職は参加できないことが多い。情報共有を行っている。

委員 通常、保育所や認定子ども園には保育士や栄養士等しかいないが、専門職と連携しながら保育できる状況がよいと思う。

委員 療育とは具体的にどんなことを行うのか。個別の療育とは1対1で行うものなのか。療育終了後は認定こども園で過ごすのか。また、てんでんこの保育士には高いスキルが求められると思うが研修等は実施しているのか。

白井ふじ 遊びを通じて感覚を養ったり、体幹を鍛えるなどのプログラムがある。子どもの状態に合わせてプログラムを組む。てんでんこの場合、個別の療育は1対1で30分となっている。療育が終了すると園に戻って退園時間まで過ごす。

研修については、市のこども発達センターの先生にお願いした。

委員長 認定こども園の保育教員の配置人数はどのくらいか。

白井ふじ 3歳児クラスは、通常2人の保育士で足りるところを3人配置している。4歳児クラスと5歳児クラスは、それぞれ通常1人のところを2人配置している。ただし、5歳児クラスは、就学に向けて、必要に応じて保育教諭が入るという対応をしている。何かあればすぐに入れる体制は整えている。

委員 園での取組みが素晴らしいと思った。保育士が前向きなのは個人の資質によるものなのか。

白井ふじ 個人の性格はあると思う。チャレンジ精神が旺盛な職員は多いと思う。

白井ふじ 園長は、保育士に対して常に「できない理由」を聞くのではなく、「どうやったらできるのか」を問う。それが保育士の考え方に影響していると感じている。保育士も子供たちの成長に手ごたえを感じている。それが前向きな姿勢に繋がっていると思う。

委員 難しい取組みであるが、保育士個人の属性によるものだけでなく、上長の指導によるところもあると感じた。

委員長 大変参考になる話をありがとうございました。

では、議題3に移る。議題3について事務局より説明をお願いします。

事務局 では、資料3に沿って説明させていただく。

(以下資料3に沿って説明)

委員長 では、資料に記載されている課題1から7について、本委員会で検討していくべきものかどうかご意見を伺いたい。

まず、課題①について委員の皆様へ順に意見を伺いたい。

委員 (全員、本委員会で検討していく事項であるとの意見)

委員長 全員、本委員会で取り上げるべきというご意見をいただいた。

続いて、課題②についてであるが、課題①と密接に関連した内容であることから、本委員会で検討していくのが妥当と思われるがいかがか。挙手をお願いしたい。

委員 (全員挙手)

委員長 全員賛成のため、課題②は本委員会で取り上げることにする。

次に課題③について、すでに前年度より「魅力ある働き方の推進」で取り組んでいるとのことだが、進捗状況について現場の状況を説明願う。

委員 公立園では、現場で取組を進めるなかで保育士から色々な意見が出ている。

委員長 私立園の状況はどうか。

委員 例えば会議の記録でも、どこまでのものを求めるのかは園によっても違うと思う。そのあたりは、現場で検討していくべき課題だと思う。

委員長 では、現場で検討していく課題であり、本委員会で検討する内容ではないということによろしいか。

委員 (全員賛成)

委員長 では課題④について委員の皆様は順に意見を伺いたい。

委員 (全員、本委員会で検討していく事項であるとの意見)

委員長 全員、本委員会で取り上げるべきというご意見をいただいた。
次に課題⑤について委員の皆様は意見を伺いたい。

委員 この委員会で検討していく課題だと思う。

委員 この課題の解決方法の着地点が見えない。この委員会で議論するのは難しいと思う。

委員 保育士不足については、すでに「魅力ある働き方の推進」で検討を進めているが、処遇改善の補助等の部分を検討するならこの委員会の内容だと思われる。

事務局 公立保育所の役割と体制の検討により解決できるものかどうかという視点でご意見をいただきたい。

委員長 意見が分かれているが、この委員会で議論していくべきか、あるいはこの委員会以外で解決を進めていくべきか、挙手により決を採りたい。

委員 (挙手した者が数名。それぞれ同数程度)

委員 保育士を確保するためには、保育士の賃金についての検討が必要と思われる。この委員会でそこまで議論するものなのか分からない。

委員長 意見を決めかねている方も多く、この場で結論を出すのは難しい。課題⑤については、次回の会議でもう一度事務局から説明をしてもらい、そのうえで結論を出したいと思う。事務局、それでよろしいか。

委員 承知した。次回会議であらためて説明を行う。

委員長 次に課題⑥について検討する。私立園の状況について説明をお願いしたい。

委員 私立園では、処遇改善加算の算定の関係でキャリアアップ研修の受講が義務付けられている。主任になるためにはそういった研修の受講などが必要である。

委員長 公立の状況はどうか。

委員 昇格にあたって試験などはない。

委員長 一定の経験を積むと、自動的に主任に昇格するということか。

委員 そのとおりである。

委員長 各委員に意見を伺いたい。

委員 主任の業務や役割が明確になっていない。今後、明確にしていく必要があり、この委員会で検討していくべき課題と思う。

委員 解決に繋がるか分からないが検討してよいと思う。

委員 この委員会で検討することではないと思う。

委員 この委員会で検討する内容ではないと思う。

委員 公立保育園ならではの課題だと思うのでこの委員会で検討する内容だと思う。

- 委員 外部から保育に関する講義をお願いされることがあり、いつも同じ保育士に依頼がくるが、同じ保育士である必要はない。主任保育士の役割とすることで複数の保育士がそのような経験を積むことができ、成長できる機会を持つことに繋がる。ただ、それは保育士のなかで検討すればよいことだと思うので、この委員会で検討する必要はないと思う。
- 委員 保育士の質と数の確保は密接に絡む問題だと思うので、この委員会で取り上げてよい内容だと思う。
- 委員 取り上げることに問題はないと思う。
- 委員 この委員会で取り上げる内容だと思う。
- 委員 組織の昇格等に関わる問題であり、この委員会での検討事項としてはふさわしくないと思う。
- 委員長 意見が分かれている。課題⑤と同様に次回に持ち越して検討を重ねたいと思うがいかがか。
- 委員 キャリアアップのロールモデルを作るのは重要なことだと思うが、この委員会で検討していくことではないと思う。
- 委員長 貴重な意見をありがとうございます。本件については、次回検討することとさせていただきます。
- 次に課題⑦について検討する。ご意見をお伺いしたい。
- 委員 求められる役割が明確にならないと考えづらい。
- 委員長 公立には看護師が配置されていたり、保育士が子ども発達センターに配属されて療育の経験を積むことができるといった、公立ならではの状況がある。それを踏まえると、公立園にできることがあると思う。
- 事務局 次回会議で地域課題や先進自治体の事例について説明させていただく予定のため、そこも踏まえて検討してはどうか。
- 委員長 では、課題⑦についても、次回会議で検討することとする。

使用した資料

- ①資料1 インクルーシブ保育について
- ②資料2 白井ふじこども園について
- ③資料3 保育所の課題の整理について